



## contents

## [コラム]

お手伝いいただけますよね?  
…久野 靖 (筑波大学)

## [解説]

文系主体の地方私立大学での情報科教職  
課程と情報科教育法  
…和田 勉 (長野大学)

## [解説]

高等学校教科「情報」教員養成の実際  
…西端律子 (畿央大学)

## Column

## お手伝いいただけますよね?



教育コーナー「ぺた語義」が始まってから3号目となったが、お楽しみいただけているだろうか。最近の情報処理学会内での教育に対する関心の高まりを反映して、2011年3月2日～4日に東京工業大学で開催された情報処理学会第73回全国大会では、イベント企画の中で「情報教育関連合同シンポジウム」として初等中等教育、高大連携、一般情報教育、学部専門教育、社会人教育という合計6件もの教育関連のシンポジウムが開催された。その中で初等中等教育をテーマとするシンポジウムは、「情報処理学会員の皆様、間違っていますか?」と題して、小学校から高校までの情報教育における問題点を報告し、学会員が高校までの教育にも関心を持ち、積極的にかかわっていくことを呼びかけるというテーマで開催された。「間違っていますか?」という題名にしたのは、会員がなんとなく思っている情報教育の様子が、実は、かなり世間ズレしていることを知ってほしいと企画側で考えたからである。その準備として、筆者を含め数名で過去にコンピュータを使った授業実践をされた先生を訪問し、話を伺う機会を持った。シンポジウムでは多数の来場をいただくことができ、パネルディスカッションでフロアからも多くの意見をいただくことができた。

これらを通じて話されたいろいろな事柄を全部紹介する紙面はないが、実践者の先生の発言でいちばん心に残っているのは、「新たに教員になる先生は、自分が生徒のとき、よい先生に出会ったから先生になろうと思ったのであり、よい先生の見本を知っている。ただ、どうしたら『教え込み』でない、よい授業をできるかという方法がまだ分かっていない。そういう先生たちのために、手助けをしてあげてほしい」ということであった。

そこで、シンポジウムではこの発言を紹介し、情報処理学会として情報教育やコンピュータの活用を切り口に授業方法の提案を行ったり、実際に現場に出かけて行って、先生をサポートしたり、子どもたちに情報技術を知っている立場ならではの話を紹介するなどの活動をするのがよいのではという話をした。筆者個人はプログラミングを題材として扱ってほしいと思っているが、それだけに固執するつもりはなく、さまざまな教科の、さまざまな授業で学会員によるサポートが実現すればよいと考えている。実はこのことは情報処理教育委員会が以前から検討していることであり、なるべく早く、情報処理学会として会員有志が先生がたをサポートする仲介を行う体制を整えたいという方向で活動している。その準備ができたとき、皆様には…

お手伝いいただけますよね?

久野 靖 (筑波大学)